



楓

かえで

復刊75号

妙たえの光ひかり

ふつう紅葉といえばこの楓のことを言うが、その他の木も紅葉や黄葉と書いて、いずれもモミジと言う。とくに紅黄葉の美しい名前の木には下に紅葉をつけて、うるしもみじ 漆紅葉、はせもみじ 榎紅葉、いちようもみじ 銀杏黄葉、しらかばもみじ 白樺黄葉などと言ひ、まとめて名木紅葉と呼ぶ。

楓が一般にモミジと言われるのは、紅葉の美しさを代表しているところから。また、楓の葉は手の平のよう切込みがあり、蛙の手に似ていることから古くは「かえるで」と言った。すべて本から得た知識で知らないことばかりだった。

境内の楓は10月頃に薄く色づくが、これを薄紅葉と呼ぶ。鮮やかな色になるのは11月で、それも写真のよう紅葉と黄葉の両方があるから紛らわしい。

裏を見せ表を見せて散る紅葉 良寛

(この紅葉は楓のことか?)

行事案内

秋のお彼岸中日法要

9月23日(祝)
午前 10時半……安穩廟法要(終了後本堂にお参りを)
11時……彼岸会中日法要
昼 12時……おとき
午後 1時……法話 住職
どなたでも静かにゆつくりお参りいただけます。
おときは当日受付でお申込下さい。

身延山・七面山 団体参拝旅行

10月8日(土)・9日(日)・10日(祝)
僅かの空席がありますので、お問合せください。

お会式、第10回戒名授与式

午前 9時……戒名授与者研修
11時……お会式、戒名授与式
昼 12時……おとき
午後 1時……記念法話 互井観章 師
事前申込制 詳細は別紙でご案内

秋の一日研修

11月13日(日) 午前9時～午後3時
詳細は12ページに

総供養会

12月11日(日) 午後1時より受付 2時法要
詳細は12ページに

月例信行会

10月2日(日) 11月6日(日) 12月4日(日) 朝7時
予約不要 会費千円

月例ボランテラ

主に境内の清掃作業
毎月15日 午前9時～12時 午後1時～3時
午前と午後両方の方は昼食ご持参ください。
12月は落ち葉掃きで回数を増やす予定です。



暑い夏が終わり秋の到来です。皆様お体に変調はありませんか? くれぐれもお気をつけ下さい。妙光寺ではたくさんの行事を無事終えましたが、多すぎた仕事量のせいかスタッフもお手伝いの方にも体調不良がでてしまいました。秋の行事も色々あるので、ぼちぼちとやっていきます。一番の葉は皆さんの喜びの笑顔です。体調回復の秋にしましょう。 小川



無縁社会と家族

小川英爾

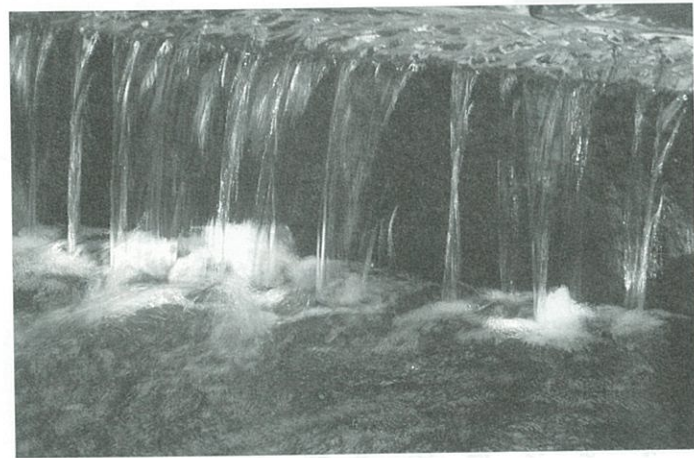


孤立死

新潟市に住む檀徒のAさん宅に、東京のある区役所から突然の通知が届いた。奥さんのお兄さんが都営住宅で死後数日たって発見された。区役所が火葬して、遺骨をお寺に預けてある。親族を調べたらAさんの奥さんに行きついたので、これまでの経費20万円の支払いと遺骨の引き取りに来て欲しいという内容だった。

Aさんは奥さんが3人兄弟の末娘だったが事情で後継ぎの立場になつたので、婿に入り義父母を看取り墓も引き継いだ。すぐ上の義兄は近所に住み、交流も頻繁にあるが、子供がいないので安穩廟を申し込んでいた。通知のあった長兄は東京で働き、結婚して二人の娘も嫁ぎ、妻とは離婚して一人暮らしだった。10年以上音沙汰がなく案じてはいたのだが、突然の知らせに驚いた。

二人の娘に尋ねると「私たちは捨



てられたも同然で、父親とも思いたくない」とのこと。「何があつたかわからないが、どんな最期だったかと思うと兄が不憫に思えて」と、Aさん夫婦は兄の遺骨を引き取つて家の墓に入れてやりたいと考えた。しかしそのための区役所への支払いと引き取りの交通費、もしその他にも家賃の未払いや借金でもあつたらとても払えない。また離婚した、妻とは関係が切

無縁社会

けれども、二人の娘との権利関係はどうなるのか。我が家の墓に入れることに問題はないのか。わからないことだらけで、いっそ関わらない方がいいのか、悩んでしまった。

こうした誰にも看取られることなくひとりで亡くなり、死後に発見されるいわゆる孤独死が増えて、年間3万人を超すと報道されている。偶然にもこの数が年間の自殺者数と同じというのも不思議な気がする。しかし人は皆、生まれてくるときも死ぬ時もひとりで元来孤独なのだから、「孤独死」ではなく、「孤立死」ではないのか。孤立したなかで死んでいくことが問題なのだ、知り合いの研究者が言っていたが同感だ。私たちは縁があつて生まれてきて、数多くの縁の中生きてこそ安らかな最期を迎えるとお釈迦さまは説かれた。孤立した最期を迎える人が増えた今の時

石灯のまかり



妙光寺の送り盆

浮かび上がるメッセージ燈籠



一座目の法要



二座目の法要



行列は山門を通過して本堂へ



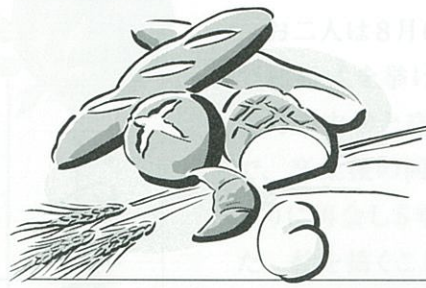
サムルノリを先頭に本堂へ



幻想的な灯りの中“再会の祈り”で終了



サムルノリの奉納演奏



が家族を伴って里帰りしたりと、お孫さんまで揃って待つているお宅が多い。こちらも昔のように泊りがけとも行かず、限られた時間で失礼するのが心苦しいほどに欲待していただくのがとてもありがたい。

そして年数も長いから、家族の中で子供が就職した、結婚した、孫が生まれたという嬉しいことから、様々



な悲しいことまでが話題になる。また最近はお孫さんたちに、亡くなったお爺ちゃんやお婆ちゃんの昔話を聞かせる年齢に私がついてしまった。

寺の家族

私自身、寺に生まれ育ちいつも家族以外の人が寺にいたから家庭とか、家族とかには馴染めない思いが心のど

代を、「無縁社会」と名付けたのはNHKの報道番組だった。

その背景には子供は別世帯で、高齢者夫婦の死別による一人暮らしがある。同時に、Aさんの義兄のように離婚で一人暮らしという例も多い。そのうえ近隣住民との交流も、さらには子供を含めた親族とも疎遠という社会だ。NHKの番組の中で、行政が孤立死した高齢者の子供に連絡したが、遺骨の引き取りも遺品整理の立会いも引き取りも拒否されたシーンがあった。なんと非情な子供かとのとき感じた。ところがある新聞にはこんな記事があった。死後1ヶ月以上経って発見された遺体の親族に、アパートの管理者から数百万円の請求があった。それは死臭も残る部屋の清掃料金と、訳ありの部屋なので家賃を下げないと次の入居者が決まらないための差額分だという。実はAさんと同じように、経費の支払いや法的な手続きに心じ切れない親族だつて

いるのもこの国の現実だと知った。

無縁社会の背景に親子世代が同居しない核家族が増えたのと同時に、若者世代が結婚しなくなっていることも大きな要因としてNHKの番組でも取り上げた。このまま推移すると20年後の2030年には男性の3人に一人、女性の4人に一人が生涯独身のままで、東京都の50%は独居世帯になると厚生労働省が試算しているのだ。その結果子供がさらに生まれなくなり、さまざまな社会保障制度が成り立なくなる。だから…、という議論は簡単ではなく問題があまりに多い。

お盆の風景

ところで今年もお盆の季節が終わり正直ホッとしている。8月のお墓参りでは多くの家族連れでにぎわったが、心なしか子供の姿が少なくなつたように思えるのは気のせいばかりではないようだ。

また全部で400件近いお宅にお盆のお経に伺った。7月は関東方面の30件近くに私一人で伺ったのだが、今年例年にならぬ猛暑が厳しかった。この関東のお盆の檀徒宅回りは、新潟から関東に移り住んだお宅を、乞われて先代の住職が訪ね歩いたことから始まった。当初は今ほど交通の便が良くないので、「我が家では毎年泊まって頂いたんですよ」と、東京の郊外や神奈川県のお宅で聞いた。そんなお宅では「御前さまには夕方着かれるとまずお風呂に入っていたら、汗を流してからお経でした。子供心に良く覚えてます。」なんて話も。

私も高校生のころから一部手伝ったので、40年余り伺っているお宅もある。世代が代わつてお付き合いの途切れたお宅もあるし、一方で安穩廟がご縁で新たに伺うようになったお宅もあつて、件数はほとんど変わらない。

日時を決めて伺うので、この日ご主人が会社を休んだり、嫁いだ娘さん

こかにある。そもそも妙光寺700年の歴史のなかで、住職が結婚したのは100年前の私の祖父に当たる人からだ。私は妙光寺の53代目だが、妻は奥さんとして3代目ではない。建前上は寺は家ではないから家族ではなく「寺族」と呼ぶことになっている。寺に家族はなく家庭もないから「寺庭」と呼び、奥さんのことは「寺庭婦人」というのが宗門では正式なのだ。その寺庭婦人が住職に対して「御前様」とか「お上人様」と呼び、敬語で話すのも寺の習慣である。夫婦喧嘩になると「お寺の奥さんなんてお手伝いさん以下だ」と言う妻の言い分もあながち外れてはいない。厳然と残るお寺の古い体質の中で、どう自分の意識と現実を変えていくのかは、簡単なようだが結構難しい面がある。



お寺で結婚式



在ニューヨーク 遠藤信さん・礼子さん(共に46歳)

お二人は8月6日、妙光寺で結婚式を挙げられた。旧巻町の中学と高校の同級生で、卒業後の同窓会で24年ぶりに再会し5年後に結ばれた。絵を描くことが好きだった信さんは、東京の学校でデザインを学んで5年ほど広告代理店に勤務。外国航路の船の機関長だった父親の影響もあったのか、世界を見たいと会社を辞めてアメリカに渡った。2年ほどして戻ろうと思ったが当時バブルが崩壊した日本では仕事も無いとの友人の言葉で、縁あってニューヨークの広告会社に職を得た。そこでデザイナーの仕事に就いて今に至る。

そもそもは両親の強い意向で、年齢もいってるから結婚式はともかく、日本にいないことだしせめて親戚への披露だけでもしようということだった。それなら両方の親族が多い巻でやろうと、会場の候補を見て回っているうちに、礼子さんから「妙光寺にしたい。自然が豊かで、モダンなイメージがとて面白い」となった。相談を受けた住職の「それなら簡素に式も挙げませんか」の勧めに従うこととした。これがちょうど1年前の話。以来ニューヨークの信さんと妙光寺の間で、Eメールによる打合せをしながら準備が進められた。



境内での記念写真



信さんのご両親の生家は共に妙光寺隣村の五箇浜出身で、古くからの檀徒。ことに母親は現在巻地区の妙光寺檀徒の集まりである「講」の一員として、毎月の集まりを欠かさない。さらにその母親で信さんの祖母は妙光寺春の伝統行事「ご判さま」で、五箇浜地区のとりまとめ役を高齢になるまで何十年と続けた信心家だった。

結婚式当日は双方で28名の親族が本堂での式に参列、その後冷房の無い大広間に氷柱を立てて生ビールを飲むという、まことに和やかな披露宴だった。信さんは「アメリカ暮らしが長く日本の宗教には正直言って違和感がありました。しかし雅楽の生演奏でお経に包まれての結婚式、いいもんですね。考えが変りました」。礼子さんは「学校の卒業式以来の緊張感でした、感激です。ありがとうございます」と。

9月からニューヨークで二人の新しい暮らしがスタートする。信さんは勤務先で主に通信や国外送金業務を扱う会社の広告を担当しながら、現在会員100人ほどのニューヨーク新潟県人会の副会長も勤める。やがては一緒に故郷にもどって、小学生まで過ごした五箇浜で暮らしたいという。



様々な家族と縁

自分のことを持ち出すまでもなく、世の中には様々な家族がある。時代の中でそれも随分変わってきたし、これからも変わっていくのだろう。住職としてこれまでも今も多くの家族の話を見聞きしているが、何の悩みや問題を抱えない家族は皆無といっていいと思う。お盆に集まった家族だった、深刻な話題になったこともある。そのなかで「なんとかしたい」と色々苦心している姿に心打たれることが多

かった。

一人娘が独身のまま両親を介護し、後に残った母親のお通夜をひとりで行った。そこでは寂しいというより清静しさを感じた。一方で、同居する認知症の老母をひとり残して急死した、こちらも独身の一人娘がいた。どんなにか心残りだったことだろう。『独生独死独来独来』という『無量寿経』というお経の中の言葉があった、「人はひとりで生まれひとりで死ぬ。ひとりでやって来てひとりで去っていく」、元来孤独な存在だと。だからこそ人との繋がりの大切さが説かれる。

両親という縁によって尊い生を受け、多くの人の支えで成長し、人中でしか私たちは生きていくことは出来ない。そして病めば人の世話になり、死ぬときはひとりだけれど誰かの手なしには葬られることができない。幾多の縁によって生かされているはずなのだが、それが実感できない

い社会になりつつあることを怖いと思う。

忘れたくない絆

冒頭の兄の遺骨の引取りを求められたAさん夫妻。私の紹介した司法書士の助言を受けて「金はないけど時間ならある」と、インターネットで家庭裁判所から書類を取り寄せ、自分の手で書類を作成して仮に負債があつても引き受けなくてもいいように手続きを終えた。区役所とも電話で交渉して区から葬儀の助成金を得て費用が減額になり、遺骨は送料着払いの宅配便で手元に届いた。この10月の一周忌に併せて妙光寺での簡素な葬儀を行い、両親の眠る墓に埋葬するところまでようやくたどりついた。「これで安心です。兄の娘たちは今は立ち会わないかもしれませんが、いつでもここに来ればお参りが出来ますし」と、笑顔が爽やかだった。

「送り盆」にぎわう

8月27日、万灯の灯り・妙光寺の送り盆が盛会でした。前日まで続いた雨がからりと晴れ上がり、秋の気配を漂わせる日差しと、木蔭では風がとても心地よい一日となりました。

総勢で340人の方々が10箇所近いコーナーをそれぞれに楽しみました。2回の法要では10名の僧侶の他、20名の檀信徒も式衆として参列、荘厳でした。

今回初めての、蓮の花飾り手作り体験。コーナーも常に人で溢れ、後日も問合せがあったほどです。3人のゲストを招いた住職とのトークコーナーも一杯の人で、笑ったり真剣に聞き入ったり熱気に溢れました。

日が西に傾いたころ、安穩廟広場の芝生では韓国の音楽サムルノリが奉納演奏され、力強い音のなかにも魂が安らぐような響きで感動的でした。

夜、院庭での交流会は総勢130名がお酒も入って和やかに語り、さらに恒

例の「安穩甚句」で踊りの輪ができました。大滝檀徒総代のお礼の言葉の後、全員で境内一面に広がる口ウソクの灯かりの中、6時間にわたり読経を続けた東屋の祭壇に移動し、再会の祈りを捧げて全日程が終了しました。

この模様が9月15日夜8時から、NHK総合テレビ「世界で始まる二ホンGO!」の番組内で全国放送される予定です。ご覧下さい。



サムルノリの奉納演奏

経費と義援金のお礼

年会費と東日本大震災への義援金その他をお願いしましたが、お蔭様で大変順調にご入金をいただきました。ことに震災義援金では8月末現在で648,580円のご協力をいただきました。震災直後から本堂に置いた募金箱の83,852円、送り盆でのTシャツ販売による収益16,100円を合計した748,532円を、日蓮宗新潟東部宗務所を通じて日蓮宗に届け、被災地の主に日蓮宗寺院関係者の復興に充てられます。厚く御礼申し上げます。会費納入は8月末までですので、お忘れの方をお願いします。

水害被害

7月末、新潟県内の集中豪雨で主に中越地区に被害がありました。三条市内の個々にお尋ねの結果、1件のお宅が床上浸水されたそうで、震災義援金の一部からお見舞いをさせていただきました。

妙光寺はご心配の電話も何軒かいた

墓地の枝を伐採

だきましたが、無事です。境内が道路より低いうえに排水が悪かったため、以前は床上浸水もたびたびでした。現在は排水路も完備し、さらに春の参道改修工事でも側溝も整備したので、道路、山側墓地からの水も問題なく処理できました。

山側の墓地では木が生長して一部では墓石に覆いかぶさるほどになっていました。要望がありお盆前に枝打ちをして、さっぱりさせました。これ以上枝をつめると木が弱るので、これが限界です。今後は墓地の区画整理を役員会議で検討します。

施餓鬼法要

8月1日、お盆の墓参りと施餓鬼法要、併せて新盆の法要でした。伝統的にこの日なので「仕事を休んで来ました」という方や、休めなかったのせようか一番は朝4時半の方でした。今年はお盆の方が多かったため、新盆法要を7日の日曜日にも行って分散を図り



人の絶えない「蓮の花飾り手作り体験」



「住職とトーク」に聞き入る



本堂の施餓鬼法要



墓地での法要に向かう

ましたが、「昔からの1日に馴染みがあるから」と、7割が1日でした。お中元、お盆礼他各種お心遣いお礼申し上げます。



別紙でご案内のように日蓮聖人のご命日の法要をお会式といひ、妙光寺では今年下記のように執り行います。午後からの記念法話に東京新宿・経王寺の互井観章ご住職をお招きします。獣医としてアメリカの牧場で働いた経験を持ち、ダンス、『今昔物語』の現代語訳等々実に多才なお上人です。楽しくてためになるお話。お誘い合せ、どなたでも気軽にご参加ください。

期日 10月23日(日)
 日程 午前11時
 日蓮聖人七三〇遠忌法要・第10回法号授与式
 昼 12時 おとき(手作りの昼食)
 午後 1時 法話 互井観章 師
 報恩料 お一人 3,000円の会費制とします。
 申込 10月15日まで
 *詳しくは別紙ご案内で



前号でご案内の通り、生前に戒名を差し上げる研修と「法号授与式」をお会式に併せて開催します。10月23日(日)午前9時〜午後2時半頃。費用3万円。



お申込みは(取り敢えずの問合せだけの方も)9月30日までにお願ひします。折り返し詳しい案内書をさし上げます。体調が悪くてお寺まで行けないという方はご相談ください。

お会式のご案内

お会式と生前戒名授与

生前に戒名をお授けします

本堂でのお加持



岩屋祭礼



岩屋での法要

妙光寺の裏手にある岩屋では日蓮聖人とゆかりの深い七面天女をお祀りしています。毎月19日にお経をあげ、8月19日に大祭として法要を営みます。近年は参詣も近隣の方が大半のやや寂しいものになりました。しかし中には遠く市内の北区から「毎年欠かしたことがありません。動けなくなるまでまでお参りさせてもらいます」という女性信者グループもいて、皆さんで和やかにお祈りの席を囲みました。

この岩屋が9月初め「新潟日報」夕刊で紹介されました。取材の記者は「興味本位でなく、歴史ある信仰の聖地として記事にしました」と事前に話してくれました。

水面で踊る人形たち



境内の特設プールを囲んでの鑑賞

ベトナム水上人形劇
 前日にベトナムから到着したばかりという男性6名の人形遣いが、午後3時過ぎに到着。境内の直径7m深さ60cmの特設プールに池の水を移し入れ、その上にお寺のような舞台装置を組み立てるのですが、翌日の開演近くまでかかるといふ、のんびりした作業振りでした。

7月24日、開演の午後3時には100人近い大人と子供が集まりました。スタシの裏側から手で操作するのですが、水面上で農民や踊り子、牛や蛙などの動物の木の人形が音楽に合わせてユーモラスに動き回ります。生きているかのように泳ぐ龍が口から火花や水を吹くと、集

開創700年記念法要

(平成25年4月か8月)

- 700人規模の祝賀会(特設テント)
- 記念塔の建立
- 参道整備(参道の植栽)
- 山側墓地区画整理と整備
- 子供のための研修道場
- 妙光寺の手引
- 渡辺隆次展覧会

開創700年記念事業
 妙光寺は1313年に創建されたので、2年後の平成25年(2013)が700年目に当たります。左記のような記念事業を役員会議で検討中ですが、経費との兼ね合いで未だ決定に至りません。基本は「700年の歴史を踏まえて、未来に向けた第一歩を」としました。引き続き具体策を協議の上、決まり次第お知らせいたしますので、ご協力のほどお願いいたします。

まった子供たちが炎天下の暑さを忘れて大喜び。古いベトナムの民俗芸能で、全体のほのぼのとして素朴な雰囲気には大人も癒されたひとときでした。

秋の一日研修

お経を読んでみたい、少しは意味が知りたいという方。数珠の持ち方からお参りの作法まで、秋の静かな一日お寺で修行しませんか。椅子席もあり、堅苦しいことは一切ありませんので、おひとりでも気軽に参加いただけます。回を重ねた方には繰り返し、さらに上のコースもあります。



期日… 11月13日(日) 午前9時～午後3時
対象… 檀信徒 安穩会員
費用… 昼食付き 4千円
申込と締切… 11月5日までに電話、はがき、FAX、ホームページ連絡窓口等から
前泊… 県外等遠方の方は妙光寺で前泊できます。



身延山・七面山 団体参拝

10月8日(土)～10日(月・祝) (土曜から3連休)

10月8、9、10日(3連休)の2泊3日、日蓮宗総本山で山梨県の身延山への大型バスによる団体参拝旅行です。現地集合コースを含めて僅かの空席があります。9月23日を最終締切としますので、ご希望の方は早めにお問合せ下さい。



暮れの総供養会

法事が当たっていても都合でできなかった方の「総供養会」。お寺に集まって合同で法事を行います。安穩会員もお受けします。

- 期日 12月11日(日)午後1時～受付 2時～法要 3時～銘々で墓参
- 費用 塔婆1本2千円(一霊に1本) お供物共通費2千円 お布施
- お持ちになるもの お位牌 墓参用花 線香 ロウソク
- 服装 平服でどうぞ
- 申込 12月5日までに、何回忌か 塔婆の本数 参列予定人数をお知らせ下さい。



あんのんのページ

葬儀費用の収支?

家族だけの内輪の葬儀が増える傾向です。故人が高齢で身内も少ない等の理由が大きいようです。以前あった80代の男性の場合、故人の兄弟は皆さん他界され、2人の子どもとその親族10人が参列者



でした。

葬儀斎場に2泊し簡素な祭壇でしたが、参考までに葬儀社の担当者に見てもらうと、葬儀一式で約50万と飲食費等が約25万円でした。もっと安い方法もあるのかさらに尋ねたら「生活保護受給者だから一番安くと言われた場合、生花なしの簡単な祭壇だけで20万円でしょうか。お通夜の夜、斎場に1泊していただくだけで、飲食もありません」とのこと。

一方でこの7月に住職の姉が74歳で亡くなり川崎市で葬儀でした。普通の会社員の妻でしたが交際が広く120名の会葬者があり、戴



いた香典の額もかなりになりました。それだけに3人の息子たちははてんでこ舞いで、いい社会勉強になったと話しています。

いわゆる家族葬は周囲に気を使わなくてすむのですが、香典収入もあまりなく支出だけです。かたや従来的一般にお知らせする葬儀は気を使いますが、戴く香典で収入の方が多いなんてことも以前はありました。葬儀はお互いさまの支え合い、というこれまでの習慣が消えてしまうとすればどこか寂しい気もします。

会員で檀徒の田村淳子さん(新潟市)は、2人の娘さんを嫁がせた後、夫婦で高齢者施設に入居されました。その施設選びから入居までの体験を本にまとめて出版、とてもわかりやすくまとめられ『新潟日報』の書評欄でも紹介されました。

『ホームの窓から「こんにちは」』
1,050円
郁朋社 TEL. 03-3234-8923





子供から大人まで楽しんだ大道芸



野本医師と住職のトーク



賑わうバザール広場



常経で静かに祈る

石灯のあかり 妙光寺の送り盆



澄み切った空



お茶を飲みながら話がはずむ



恒例「安穩甚句」



交流会開始の乾杯

「迷惑をかけたくない？」 小川なぎさ

暑い夏が終わろうとしています。いかがお過ごしですか？

お盆の境内はお墓に花畑のようにたくさんの花が手向けられていて、まるでみんなの魂が集まっているように見えました。また、夏最後の行事「送り盆」では角田浜の若手、毎月の信行会の方々が練習したお経を唱えながら散華をする姿に、じーンと少し泣けました。そして久しぶりに私が子供だったころの夏を思い出しました。

私の父は魚沼塩沢町出身で生家は小さな農村にあり、お盆になると一族全員が集まりとても賑やかでした。祖母の畑のとうもろこし、お盆の仏壇の綺麗な提灯、おつかいで、びんをかかえて酒屋に葡萄酒を買いに行ったこと、なぜかその鮮やかな色ばかり覚えています、いつもとは違う特別な日、それがお盆でした。

さて先日、近くに住む妹と母を誘って久しぶりに食事をしました。世間話をする中で母が「あたしたちはさ、(母の友人たち)みんな子供の迷惑にならないようにがんばっているんだよ」と言い、「今はね、病気になっても子供はあてに出来ないからシルバー人材とか、まごごろヘルプという所に頼むととてもよく看病してくれるんだって」などなど、情報も話してくれます。妹は「えー私だってママとパパの面倒はみるよー」と親孝行なことを言います。私自身も義母の介護で

大変だったときには自分の子供に面倒はかけたくないと確かに思いました。でも4人の娘を大学に進学させ、考えが変わりました。全員が奨学金を借りながらも、その仕送りで全く老後の貯金どころではなかったのですから。同居する三女には「私たちはさ、老後はみんなに投資した分回収とまではいかないけれど、面倒はかけるからヨロシク!」「うんわかった、みんなにおふれを出しておくよ」という頼末。

この「迷惑はかけたくない」という言葉を近頃よく耳にします。「老後の世話や、お墓やお寺との雑事を子供にさせては申し訳ない」と。人生の後半期は墓を含める祭祀の継承、介護、老後の資金、寂しさなど心配はたくさんあります。その「迷惑かけたくない」という言葉は、とても情緒的で「そうなの偉いね」と思います。でも一方で少し違和感もあります。その言葉の裏には最後まで自分の意思で自立して暮らしたい。愛するわが子に嫌なことをさせたくない。そんな親の側からだけの意味が含まれているように感じるからです。言いにくいのかも知れませんが、子供としては「頼んだよ」と正直に言っても良いのと思います。

娘4人という状況です、いつか一人になると思いつながりながら暮らしています。母親としては迷惑をかけたくありませんが、母の娘としての自分は「いいじゃん。迷惑かけても!」と思います。人間の感情は複雑です。